

令和元年度 第4回下野市学校適正配置推進協議会議事録

日 時 令和2年1月17日(金) 午前10時～午前11時30分
場 所 下野市役所 304会議室

出席委員 会 長 小野瀬 善行 副会長 大塩 宗里
委 員 蓬田 みどり 委 員 須藤 克己
委 員 宮川 長一 委 員 坂口 修
委 員 大栗 俊克 委 員 小林 亜友子
委 員 川中子 俊光 委 員 石田 陽一
委 員 飯島 珠美 委 員 上野 保久
委 員 坪山 仁
欠席委員 委 員 稲葉 啓介 委 員 高山 忠則
委 員 小谷野 晴夫

議事録(概要)作成年月日 令和2年3月26日

議 事

- (1) 細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果(案)についての協議
- (2) その他

【議事等】

- (事務局) はじめに、前回議事録の確認について事務局よりご説明いたします。事前に送付ができなかったため、本日配布させていただきました。後ほどご確認いただき、修正等がある場合には1月24日までにご連絡ください。
- (会長) 議事に入ります。
(1) 「細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果(案)についての協議」について事務局より説明を求めます。
- (事務局) 資料に基づき説明を行う。
- (会長) 只今、事務局より説明がありました。委員の皆さまからご質問やご意見がありましたらお願いします。
- (委員 A) 資料の「2. 小規模特認校制度の取組(1) 細谷小学校での特色ある取組②学年を超えた縦割り活動」に、「市内小中学校音楽祭などでオカリナを中心とした全校合奏」とありますが、「オカリナを中心とした全校合奏」ではなく、「オカリナ演奏と全校合奏」に訂正していただきたいと思います。
- (副会長) 資料の「2. 小規模特認校制度の取組(1) 細谷小学校での特色ある取組①豊かな体験活動」の中で、「体験」と「経験」が使い分けされています。「『誰もが主役』の経験が児童一人ひとりの自己有用感を高め」とありますが、ここは「経験」ではなく、「体験」のほうが良いのではないのでしょうか。
- (委員 A) 私が表現した部分になるのですが、「体験」は、自分自身の全身を使った活動を意味しており、「経験」は、体験活動の中での会話や自分自身の物事の捉え方も含めたものを意味しています。細かい線引きはしていませんが、委員 Bのおっしゃるように、「体験」という表現の方が広がりをもって捉えていただけたらと思いますので、「体験」という表現に訂正をお願いします。
- (会長) 確認なのですが、こちらの案は市民にも公開されますか。
- (事務局) 今後の予定としましては、2月の教育委員会に提言書を提出し、総合教育会議及び議会において報告させていただきます。その後、市民に対しては、ホームページへの掲載や地域保護者説明会を開催することで、情報を公開していく予定です。
- (委員 C) 資料の「2. 小規模特認校制度の取組(3) 取組の成果」で「特色ある教育活動の取組」とあるが、地域の方のサポートがあって特色ある教育活動ができていますので、文章に、地域の方や PTA の方のサポートがあるということを加えた方が良いと思います。
- (会長) 異議がないようでしたら、委員 Cのご指摘のとおり、地域の方や PTA の方のサポートがあって、特色ある教育活動ができていますということを文章に追加してもよろしいでしょうか。
- (委員 A) 体験活動を行う上では、地域の方に大変ご協力いただいておりますが、特色ある教育活動というところまで広げますと、必ずしも地域の方に携わっていただいているわけではないので、その項目において地域の方のサポートという前置きをしてしまうと、意味合いが違ってきてしまいます。
- (委員 C) 運動会や学校祭なども、学校が主体となっておりますが、学校が招待をして、地域と一体となって行っているということを見ると、やはり地域の方のサポートがあって特色ある教育活動ができていますということを入れた方が良

と思います。

(会長) 特色ある教育活動というところまで広げると意味合いが違ってきてしまうということなので、「細谷小学校での地域の方や PTA の方の支援による体験活動などの特色ある教育活動の取組」と表現していただきたいと思います。

(委員 D) 「1. 細谷地区及び細谷小学校の現状」のなかで、「平成28年度に4学年あった複式学級は、平成31年度には、2学年に減少しております。」とありますが、「2学級あった複式学級は、1学級に減少しております」という表現とどちらの方が正しいのでしょうか。

(事務局) 事務局で確認させていただきます。

(会長) これまでご指摘いただいた修正点については、事務局で取りまとめたいただき、後日修正した提言書案を郵送して、委員の皆様にご確認いただく形をお願いしたいと思います。

(委員 E) 今まで市内全域で見たときには、小規模特認校があつてよかったという方が多いと思いますが、例えば3年後の令和4年度に、複式学級が増える状況にならないとも限りません。そうなった場合に、統合するのか、小規模特認校制度を残すのかの方向性を決めるのは、文部科学省や教育委員会などの行政にお任せすることになるのでしょうか。何人から複式学級になるのか詳しくは分かりませんが、細谷小学校区だけを考えれば入学者数が限られてしまうが、市全体で考えれば生徒が集まってきていることも事実です。令和4年度に再検討した際に、統合する可能性もあるということになると継続性がなくなってしまうので、将来的に制度を残していくのかどうか、市の方針をもう少しはっきりさせなければならないと思います。

(会長) 我々は、「下野市学校適正配置基本計画（以下、基本計画）」を前提に集まっています。「基本計画」においては、小規模特認校制度を取り入れて複式学級の解消を目指す、制度を永続的に残していくということは明記されておりません。「基本計画」自体を見直すことになると、手続きをする必要が出てきます。

我々の検証結果では、小規模特認校制度は一定の成果を上げていますが、全市的にみると小学校数が減少している傾向にあるので、小規模特認校制度のあり方について、慎重に検討する必要があると思います。

(事務局) 会長の話にもあつたように、提言案は「基本計画」に基づいて作成しています。「基本計画」においては、1学年あたり3学級、1学校あたり12～18学級という望ましい適正規模を示しています。その望ましい適正規模を目指して今後進めていくこととなりますが、現在、細谷小学校には複式学級が存在しており、小規模特認校制度を取り入れながら解消を目指している状況です。3年後に再検証を行った際に複式学級が残っている場合には、適正規模として考えることは難しいので、提言案にもあるように「細谷小学校の再編も視野に入れた」検証になると考えられます。

委員 E の話の中にあつた、複式学級になる基準ですが、2学年16人以下で複式学級になります。

(委員 E) 複式学級の基準について、もう一度詳しくご説明いただいてもよろしいでしょうか。

- (委員 D) 1年生はそれなりに支援が必要になるので、1・2年生で複式学級を組む場合には、8人以下が基準になります。1年生と2年生併せて9人になれば、複式ではなくなります。1年生を含まない、2・3年生で複式学級を組む場合には、2年生と3年生併せて16人なら複式、17人になると複式学級ではなくなります。
- 人数が少ない学年が1つあると、その学年が、かなりの確率で複式学級を組むことになります。全体の児童数は着実に増えていても、複式学級が増えるという可能性もあります。そのため、3年後の再検証で複式学級が解消されなければ、再編を検討するという話がありますが、それは難しい考え方だと思います。
- (事務局) 3年後の検証のことなので、この場ではっきり申し上げることはできませんが、複式学級の解消が1つの目安になると考えています。
- (会長) 「細谷小学校の再編も視野に入れた更なる検討を行う」という表現になっていることについて、委員の皆さまからご質問やご意見がありましたらお願いします。
- (委員 F) 一般市民の方の目に触れたときに、再編の可能性があると思えられてしまうと思います。再編される可能性があるということになると、小規模特認校制度を利用して入学してくる子どもがいなくなってしまうのではないのでしょうか。
- (委員 C) 過去に、身近なところで委員 F の話のような事例がありました。廃校になると分かっている入学させるのと、分からないまま入学させるのとでは全く違うので、難しいところだと思います。
- (会長) 3年後の再検証の際に複式学級が解消していない場合でも、必ずしも再編になるわけでもないということを広報の際に申し添える必要があります。また、情報公開は非常に重要で、保護者の方から3年後に、何も聞いていなかったと言われることが無いようにしなければなりません。資料の読み取り方について様々なご意見をいただきましたが、これはあくまでも提言であり、保護者の方が大切なお子様を小学校に通わせる上での、1つの判断材料としてお読みいただければと思っております。
- 委員 F のおっしゃるように、必ず再編すると読めてしまう方もいらっしゃると思いますので、我々は、そのようには考えていないということも、何らかの方法で広報していくことが重要であると思います。
- (委員 G) 「細谷小学校の再編も視野に入れた」という文言に引っかかっているという印象を受けましたので、文章を変えてみることを提案したいと思います。再編を大前提とした表現ではなく、「細谷小学校の小規模特認校としての取組と成果について更なる検討を行う」という文章にすることで、今後も会議を開いて検証を行っていくということを分かっていただけではないのでしょうか。
- (会長) 再編という言葉が独り歩きすることを避けるために、委員 G がおっしゃったような表現にすることも1つの手段であると思います。
- (委員 A) 細谷小学校の保護者の方は、不安を抱えながら登校させていて、このような文章が出ると必ず反応されます。「再編」というたった一言ではありますが、入れるべきか悩むところです。できるなら違う表現をしていただきたい

と思います。

(事務局)

「基本計画」の中に「小規模校や過小規模校においては、年ごと或いは学年ごとに複式学級が見込まれ、学校教育の根幹である『集団生活の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することで、一人ひとりの資質や能力を引き出す』といったことが生かされにくくなることから、統廃合を見据えた適正規模の実現に取り組みます。また、段階的な移行手段として地域住民の意向も踏まえながら、複式学級のある過小規模校においては小規模特認校制度を導入するなど、児童数の増加を促します。」という表現があります。これに基づき、次回の検証を行う際には、再編を視野に入れるという意味で、「再編」という言葉を入れました。

「基本計画」も学校適正配置推進協議会の中で決定されたものなので、今回お示ししたような形で提言書をまとめさせていただきました。

(会長)

繰り返しになりますが、我々は「基本計画」から大きく逸脱することはできないので、これに沿って検証を重ねています。そして、細谷小学校においては、小規模特認校制度の効果が上がっていることが分かっており、3年後に再度検証を行うことになっています。「再編」という言葉を入れた方が良いのか、委員の皆さまからご意見がありましたらお願いします。

(副会長)

この提言は、一般市民には開示されますか。

(事務局)

ホームページで公開する予定です。

(副会長)

「再編」という言葉が引っかかっているということであれば、そのほかの柔らかな表現が必要になってくると思います。

また、適正配置基準というものが設けられているのであれば、それに従って話を進めていくのが普通の進め方なのだと思います。適正配置基準がなくなってしまうと、何をしているのか分からなくなってしまうので、適正配置基準にできるだけ則って進めるために、学校や地域の方々の努力がここで要求されてくるのではないのでしょうか。

(会長)

学校・地域・PTA の協力により、細谷小学校の小規模特認校制度の効果が上がっているのだと思います。

「基本計画」において「統廃合を見据えた」という表現がある以上、再編の可能性があるという事実も示しつつ、更なる議論を進めていくことが重要であると考えます。

(委員 E)

小規模特認校の良さを後世に伝えていくのか、残していくのかどうかという方針の問題になってくるのではないのでしょうか。「基本計画」の中に「再編」という言葉もあるので、今回は「再編も視野に入れた」という表現は入れず、「今後の細谷小学校の小規模特認校としての取組について、更なる検討を行います」というような表現でも良いと思います。

(会長)

委員 E のご発言にもありましたが、「基本計画」の中に「統廃合を見据える」という文言があるので、そのことも踏まえて、更なる検証を行うという表現にとどめておいたほうが良いのかもしれない。

他に委員の皆さまからご意見がありましたらお願いします。

(委員 H)

小規模特認校制度が上手く機能しているかどうかを検証してきたところ、効果があったので、これからも継続したほうが良いということが伝えられる提言になると良いと思います。「基本計画」に基づいて会議を開いていると

ということもあるとは思いますが、「複式学級」という言葉が引っかかるということであれば、「小規模特認校制度を継続させ、これらの取組の成果の検証を3年後の令和4年度に行うことを提言します」というような表現でも良いのではないのでしょうか。

委員 D のおっしゃったように、児童数が増えても複式学級も増える可能性があるということであれば、3年後も複式学級は残っていると思いますので、すぐに再編決定であると誤解をされないようにするために、小規模特認校制度が機能しているかどうかということが語られた提言書になると良いのではないかと思います。

(会長) 委員の皆様のご意見を伺ったところで、検証結果の最後の段落「小規模特認校制度を継続させ、『基本計画』に明記されている複式学級の解消を目指すことが重要と現時点では考えます。そして、これらの取組の成果の検証を3年後の令和4年度に行い、児童の教育環境の充実を図ることを念頭に、細谷小学校の再編も視野に入れた更なる検討を行う」という部分をどのように変更するかという方向性について、共有したいと思います。

「複式学級」や「再編」という文言ではなく、「細谷小学校の現状と取組について更なる検討を行う」というような表現にするということではよろしいのでしょうか。

(委員 G) 「『基本計画』に則り、細谷小学校の小規模特認校としての現状と取組について更なる検討を行う」という文言にするのはいかがでしょうか。細谷小学校としては、「再編」という言葉を入れることがデメリットであり、教育委員会としては、「再編」という言葉を削ることがデメリットになります。

「再編」の言葉を使わずに、読んでいただければ「再編」の文言があるものを示し、現状の良さを見てもらうために再検討をするという旨の文章に直すことで、両者がフラットな状況になると思います。そうすることで、3年間の細谷小学校の頑張りが認められる状況で再検討をしてもらえる可能性が残り、一方で、仮に人数が減って複式学級が増えてしまう状況になってしまった場合にも、市が大英断を下す可能性があるという方向性を示すこともできると思います。このフラット感が大切になるのではないのでしょうか。

(会長) 繰り返しになりますが、「『基本計画』に則り、細谷小学校の小規模特認校としての現状と取組について更なる検討を行う」という文言にすることで、「再編」という言葉が独り歩きすることを防ぎながらも、再編の可能性は排除しない方向性を示すことができるのではないかとのご提案をいただきました。

(委員 H) 『基本計画』に基づいて考えているということが提言書にあると良いと思うので、委員 G の意見に賛成します。

(会長) 「再編」は使わずに、「『基本計画』に則り、3年後に再検証を行う」と表現をしたほうがよろしいのではないかとということで、学校適正配置推進協議会としての意見をまとめたいと思います。

この方向性について事務局から補足等はございますか。

(事務局) 委員の皆様にご議論していただいた方向性でありますので、会長と調整させていただいて、提言を修正いたします。委員の皆様には改めて送付いたしますので、ご意見等ございましたら、事務局のほうにお寄せいただきたい

と思います。

(会長) この後行われる修正も含め、基本的な部分についてはご承認いただけますか。

(全委員承認)

(副会長) 本協議会の今後の在り方ということで、かなりの時間が費やされていると思いました。狙いの周知、小規模校の利点のアピールと実践、市への協力依頼という3つの事柄をこれからも継続しなければならないと強く感じました。

(会長) 副会長のおっしゃるように、「基本計画」の周知を含めて、これからさらに小規模特認校制度の周知をしていかなければならないと思います。

続いて(2)「その他」について、事務局より説明を求めます。

(事務局) 今後のスケジュールにつきましてご説明いたします。

2月13日の教育委員会定例会において、会長より提言書を提出していただきます。その後、同日に開催される総合教育会議において報告し、後日、議会においても報告を行います。併せて、ホームページ等での公開も予定しております。

今年度の協議会は今回が最後となりますが、来年度の協議会の開催につきましては、会長と日程や内容の調整を行いたいと思います。

本日の議事日程は全て終了した旨を告げ、午前11時30分閉会。